

1 水稲

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠
イネミズゾウムシ	—	やや少	・前年の発生量が平年よりやや少なかったことから、越冬密度はやや低いと推測される。(/ -)
イネドロオウムシ	—	平年並	・前年の発生量が平年並であったことから、越冬密度は平年並と推測される。(/ ±)

2 麦類

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠
オオムギ赤かび病	平年並	平年並	・作況調査ほ「シュンライ」(10月中旬播種, 4月18日現在)の開花期は5月3日頃で、平年(5月1日)並と予測される。(± /) ・開花期前後の降雨が発生に好適である。10月中旬播種大麦の開花期は5月上旬頃と予測され、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)
コムギ赤かび病	平年並	平年並	・作況調査ほ「シラネコムギ」(10月中旬播種, 4月18日現在)の開花期は5月16日頃で、平年(5月14日)並と予測される。(± /) ・開花期前後の降雨が発生に好適である。10月中旬播種小麦の開花期は5月中旬頃と予測され、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期…(+)：遅くなる要因 (±)：平年並になる要因 (-)：早くなる要因 (空欄)：該当せず
発生量…(+)：多くなる要因 (±)：平年並になる要因 (-)：少なくなる要因 (空欄)：該当せず

より詳しい内容は、下記HPでご確認ください。

宮城県病害虫防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第3号の発行日は、5月27日(金)の予定です。

令和4年度 発生予察情報	発生予報第2号 ー水稻ー	令和4年4月 28 日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	---------------------	----------------------------

ー初期害虫の発生予報と防除のポイントー

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
イネミズゾウムシ	ー	やや少

予報の根拠

(1) 前年の発生量が平年よりやや少なかったことから、越冬密度はやや低いと推測される。

病害虫名	発生時期	発生量
イネドロオウムシ	ー	平年並

予報の根拠

(1) 前年の発生量が平年並であったことから、越冬密度は平年並と推測される。

2 防除のポイント

(1) 共通事項

・薬剤抵抗性の発達防止のため、IRAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

※^{アイラック}IRACコード: 殺虫剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したもの。
(参考: 農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)

・箱施用剤を使用する場合は、1箱当たりの使用量を遵守する。

・移植直後に加害されると被害が大きくなるため、侵入盛期近くに移植する場合は発生に注意する。

・本田では、下記の要防除密度を参考に防除を行う。

イネミズゾウムシ 侵入盛期(平年:5月 26～31 日)の畦畔際2m程度の成虫密度:100 株当たり 140 頭(晩期栽培の場合は 70 頭)

イネドロオウムシ 侵入盛期(平年:6月 1～5日)の成虫密度:100 株当たり 25 頭, 又は産卵盛期(平年:6月 6～10 日)の卵塊密度:100 株当たり 80 個

・昨年、箱施用剤を使用したがいネドロオウムシの発生が多かったほ場では、薬剤感受性が低下している可能性があるため、農業改良普及センター又は病害虫防除所に御相談ください。なおイネドロオウムシについては、県内の一部地域でチアメトキサムに対する薬剤感受性低下が確認されています。

▷普及に移す技術 第94号 参考資料6 「水稻のイネドロオウムシに対する殺虫成分チアメトキサムの薬剤感受性低下」<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/735193.pdf>

－農薬の適正使用について－

- 1 ラベルに記載されている適用作物, 使用時期, 使用方法等を十分に確認する。特に, 水田用除草剤や水田で粒剤を使用する場合は, 止水に関する注意事項を確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い, 適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には, 防除器具を点検し, 十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し, 周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し, 使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては, 最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム:<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病虫害防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429 E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

令和4年度 発生予察情報	発生予報第2号 ー麦類ー	令和4年4月 28 日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	---------------------	----------------------------

ー5月中旬までの発生予報と防除のポイントー

作況調査ほ:大崎市古川(古川農業試験場)

天候予報:仙台管区气象台4月 21 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
オオムギ赤かび病	平年並	平年並

予報の根拠

- (1) 作況調査ほ「シュンライ」(10月中旬播種, 4月 18 日現在)の開花期は5月3日頃で, 平年(5月1日)並と予測される(表1)。
- (2) 開花期前後の降雨が発生に好適である。10月中旬播種大麦の開花期は5月上旬頃と予測され, 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
コムギ赤かび病	平年並	平年並

予報の根拠

- (1) 作況調査ほ「シラネコムギ」(10月中旬播種, 4月 18 日現在)の開花期は5月 16 日頃で, 平年(5月 14 日)並と予測される(表1)。
- (2) 開花期前後の降雨が発生に好適である。10月中旬播種小麦の開花期は5月中旬頃と予測され, 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。

表 1 出穂期・開花期の予測 (大崎市古川)

麦種	品種	出穂期(月/日)		開花期(月/日)	
		本年	平年	本年	平年
大麦	シュンライ	4/27	4/25	5/3	5/1
	ミノリムギ	5/1	4/28	5/6	5/4
小麦	シラネコムギ	5/5	5/4	5/16	5/14
	夏黄金	5/5	-	5/16	-

※ 出穂期・開花期の本年値は令和3年播種(令和4年産)麦類作況試験生育状況(古川農試 4月 18 日現在)の幼穂長及びアメダス古川の平均気温(4/25 までは実測値, それ以降は平年値を使用)より, 「麦類の生育ステージ予測シート」をもとに試算

※ 大麦「シュンライ」の出穂期は確定値

※ 平年値は過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値(「夏黄金」は平成 28 年播種より供試のため平年値なし)

※ 播種日:令和3年 10 月 21 日

2 防除のポイント

赤かび病

- ・赤かび病は開花期前後にかけて降雨が続くと発生が多くなる。
- ・薬剤防除の適期は、1回目が開花始期～開花期、2回目はその7～10日後である。生育状況をよく観察し、適期を逃さないよう防除を行う。降雨が続く場合は合間を見て防除を行う。
- ・薬剤耐性菌対策のため、FRAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
※FRACコード:殺菌剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したもの。
(参考:農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)
- ・「シラネコムギ」は開花期が早まるほど発病リスクが高まるので、適期を逃さないよう防除を行う。
※普及に移す技術第92号参考資料「小麦開花期とコムギ赤かび病発病リスクの関係」
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20271/621903.pdf>
- ・「夏黄金」の薬剤防除は3回を基本とし、3回目は2回目の7～10日後に実施する。
- ・「ホワイトファイバー」は「シュンライ」より出穂期が1～2日遅いので、1回目の防除のタイミングに注意する。

<参考> 出穂期（出穂率40～50%）から開花期に達するまでの日数の目安

日平均 気温(°C)	大 麦			小 麦		
	開花始	開花期	開花終期	開花始	開花期	開花終期
10	8	11	14	14	19	24
13	6	9	12	11	15	19
15	5	7	9	9	12	15
18	3	5	7	6	8	10

- ・普及に移す技術第83号参考資料「麦類の出穂期を基準とした開花期予測」参照
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20262/69869.pdf>
- ・大麦は「シュンライ」「ミノムギ」、小麦は「シラネコムギ」に適用

－農薬の適正使用について－

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し、周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し、使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム:<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429 E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp